

平成 26 年 11 月 21 日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス
代表者名 代表取締役社長兼 CEO 此下 竜矢
(コード 2388 東証 J A S D A Q 市場)
問合せ先 執行役員 横山 幸弘
(TEL 03 - 6225 - 2207)

「GL は財政回復のステージへ」
～ファイナンス事業子会社プレスリリースより～

当社グループで、東南アジアにおいてオートバイファイナンスを展開する Group Lease PCL (以下 GL) は、11 月 17 日に、「第三四半期中に貸倒引当金および Thanaban 買収に関する支出を計上し終え、当四半期から大きく好転、来年度以降も継続的に好調となる」という見通しをウェブサイト上にリリースいたしましたので、お知らせいたします。

以下 GL ニュースリリースより(訳文)

“GL は財政回復のステージへ 2014 年 11 月 17 日

貸倒引当金のうち最後となる大部分を計上し、第 3 四半期会計期間の Thanaban 買収に関連した大きな支出をカバーした後、SET 上場オートバイファイナンス企業 Group Lease PCL (GL) は、当四半期から財政的に大きく好転し来年度へその好調を継続する見込みです。

GL 会長兼最高経営責任者である此下益司氏は、本日(11 月 17 日)、「最悪の期間は終わりました。ここから我々の収穫期がはじまります。これまで育て、熟した実を味わうのです。」と語りました。此下氏の上向きなコメントは、当社が先週末報告した第 3 四半期の結果を受けたものです。第 3 四半期の結果では、多額の貸倒引当金により利益がさらに減少し、昨年 6 月の Thanaban 買収による大幅な支出が計上されました。

此下氏は、多額の貸倒引当金は過去のものになると強く語りました。政府の景気刺激策によりタイの草の根経済が回復し、これまで支払いを滞らせていた GL の顧客が期日通りに払込金を支払うようになっているためです。草の根経済は、GL の顧客基盤にとってのライフラインを形成しています。他方、Thanaban 買収に関連する支出は、一時的な評価減でした。

此下氏はまた、「先を見越すと、当四半期から我々の業績が大幅に回復していき、来年度以降へと好調を継続させていくことは間違いありません。なぜなら、これまで拡大してきたタイでの事業が好調な数字を出していくと予想されるためです。また同時に重要な点として、我々のカンボジア事業が利益を出し始め、事業の急速な拡大によってさらに大きな利益貢献が見込まれるためです。」としました。

当第3四半期のGL単独での純利益は2,225万バーツ、前年同四半期と比較して63.34%減少となりました。また、連結利益は385万バーツに減少、つまり前年同四半期の4,566万バーツ利益と比較して大きく91.57%減となりました。GL単独と連結利益の利益差異は、本年度GLが、同業のオートバイファイナンス事業を行っていたThanabanを買収したことによるもので、前年の連結にはThanabanのポートフォリオが含まれていませんでした。

此下氏は、ファイナンス事業の利子収益は増加を継続しており、これは、経済状況が不調な時期でも拡大を続け好転時に高水準の利益を生み出すというGLの企業戦略を浮き彫りにするものだ、と述べました。連結ベースで、利子収益は前年第3四半期の3億3,101万バーツから当四半期は4億7,460万バーツとなり、43.40%増加しました。この1億4,359万バーツの収益増加の内訳は、GLの収益増2,076万バーツ、Thanabanの9,583万バーツ、そしてGL外国子会社(特にカンボジア事業を担うGL Finance (GLF))の収益増2,700万バーツとなります。

他方、連結費用は前年の1億316万バーツから当四半期は1億6,654万バーツとなり、61.44%増加しました。増加の大部分はThanaban買収に関連するものです。同時に、貸倒引当金もまた前年の9,643万バーツから当四半期は1億3,866万バーツとなり43.79%跳ね上がりましたが、増加部分の多くは当四半期に初めて連結されたThanabanポートフォリオのための特別準備金が要因でした。この貸倒引当金は経済回復に伴い急激に減少していきたくらうと強調しました。

原文については、以下URLをご参照ください。

http://gl.listedcompany.com/news.html/id/437799/group/newsroom_homecorporate

以上